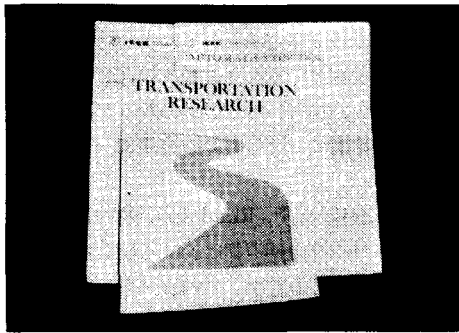




B: 雑誌の少ない分野で研究していたら楽やなあ。

A: *Discrete Mathematics* もわりあい新しいのに、現在 vol. 16 になっている。1 年間に何巻かでるんだよ。やっぱり本屋さんがだしている (North-Holland)。

E: やっぱり IP が多いんですか。

A: IP も多いけれど、もっと combinatoric な、グラフ理論とか、ほんとうの組合せ理論とか、実験計画のデザインの話とかが多い。

C: 応用としては、IP, network の話とかものがあるけれど。

A: P. Hammer, これは IP をやっている人が親分です。

DP する人必見の JMAA

F: 応用数学関係ならなんでもでているよ。

B: Bellman が editor やから、やっぱり DP が多い。

F: いや、そんなことはないでしょう、やっぱり特に多いのは、微分方程式やないかな。

E: *Mathematical Analysis*. とはどんなものを言うのかな。なんでもそのように思えるが。

B: やはり波動方程式とかいった微分方程式であらわされるようなものをあつかうのじゃないかな。

C: 関数解析なんかじゃないんだよ。

D: DP の多い雑誌は他にないからね、DP の人たちから見ると、この雑誌には DP が多いと思うわけよ。

B: なんととっても DP をやる人だったら、これを見たらんといかんよ。毎号 1 つか 2 つぐらいだけど。

D: 逐次近似も多いよ。

C: この雑誌は毎月ぐらいでるのかなあ。

E: これはたくさんでるんですよ、年 4 巻も。

A: これは Bellman の性格ですね、やっぱり。

E: editor は Bellman だけど、論文は associate editor に送れば、その段階でアクセプトかが、決められるんでしょ。

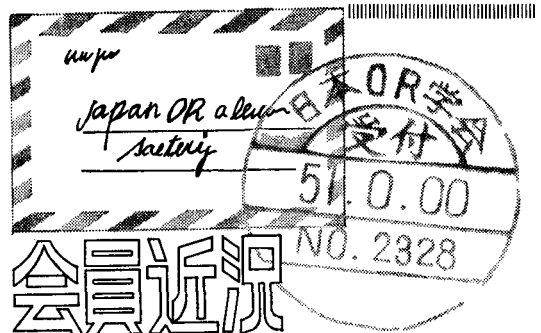
F: この雑誌の論文は、submitted by 誰それ (associate editor の名前) と書いてある。

B: 発行回数は多いけど、のるまでには相当時間がかかるよ。1 年以上待たんといかんのじゃないかなあ。

F: 1 年半ぐらいですね。

Transportation Sci. と *Res.*

1964~66 年にかけて、*Operations Research* 誌に交通関係 (主として道路交通) の論文が急増した。*Transportation Science* は、この急増した交通関係の論文を吸収するために、*Operations Research* 誌の姉妹誌として 1967 年に創刊された。したがって、OR 的な論文が主流をしめ、G. F. Newell が現 editor である。*Transportation Research* も同じく 1967 年に Pergamon Press から *International Journal* として創刊され、editor は創刊以来、F. A. Haight が務めている。水、陸、空、全般にわたっての交通関係の論文をあつかっており、記述的なものから数学的なものまで幅広いレベルの論文がのっている。他に交通関係の専門誌としては、*Traffic Engineering*, *Traffic Engineering and Control* 等があり、*Journal of Sound and Vibration*, *Journal of Applied Probability*, *IEEE Trans. on Automatic Control*, にも交通関係の論文は散見される。



昭和電線電機 山本 純陽
相模原工場業務課

経理業務にコンピュータ 私の勤めている相模原工場業務課は、おもに工場の経理、出荷の 2 つをやっているセクションです。その中で私の担当している仕事は、経理業務のコンピュータ化であり、システム作成→プログラミング→実動のサイクルです。現在は、コンピュータが新しくなる (ACOS-77/700) ので、プログラムの変換もやっています。

OR は、使う頻度は高くないのですが、使用するものほとんどは予測であり、手法は多変量解析、その中でも、重回帰にかぎられているのが現状ですが、この激動の世の中を乗りきるためには、OR はますます必要であると思います。